

京都YMCAは

- ・イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづき、青少年と共に精神・知性・身体の全人的な成長を促す運動をすすめます。
- ・人々との出会いを通じ、互いの人権を尊重し、生涯にわたって共に学び合う学習活動を展開します。
- ・地球的な視点から、望ましい環境の実現につとめつつ、いのちあるすべてのものがともに生きる平和な世界を築く運動を展開します。



2014-10
第 685 号

京都青年

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION NEWS

ホームページ <http://www.kyotoymca.or.jp>

〒604-8083 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2 ●京都版発行人／神崎清一

THE YMCA

2014年10月1日発行(毎月1回発行) 昭和22年10月27日第三種郵便物許可

すべての子ども達が、受け入れられる社会を目指して

発達障がい支援事業の願いと取り組み

京都YMCAサポートプログラムディレクター

金山好美

一九九七年頃、当時奈良YMCA体育野外部で勤務していた私の目の前には、個性的で楽しい子ども達がたくさん登場してきました。プールで水にプカプカするのが楽しそうなA君は、いくら呼んでも泳いできてくれません。体育を好きになる教室



にきていたBちゃんは、前回りするのが怖くて怖くてたまりませんが、いつもニコニコして「リーダーの誕生日は？」「お家の駅どこ？」と聞いてきてくれます。お着替えの時絶対に反対にTシャツを着てしまうC君：本当に愛らしく忘れられない人ばかりです。しかし、ちょっと困ってしま

うこともあり、私が「○○してください！」というと、大抵ほとんどの子が1回では指示に従ってくれません。「ニコニコしてるのに、なんで聞いてないんやろ？」と同僚に相談すると、「あの子ら、学習障害なんやて」という返答が

きました。「学習障害って何やろう？どうしたらあの子が鉄棒出来るように教えられるのか？」という疑問が、今でいう「発達障がい」を持つ子ども達との出会いでした。

「どうしても「逆上がりさせたい！」「もっとキャンプを楽しんでほしい」という一心で、LD・ADHDのセミナーに行ってみました。知的に遅れはなく、ある面では天才的なひらめきを持ち：ただ、自分をコントロールする事や社会性の発達の問題があると

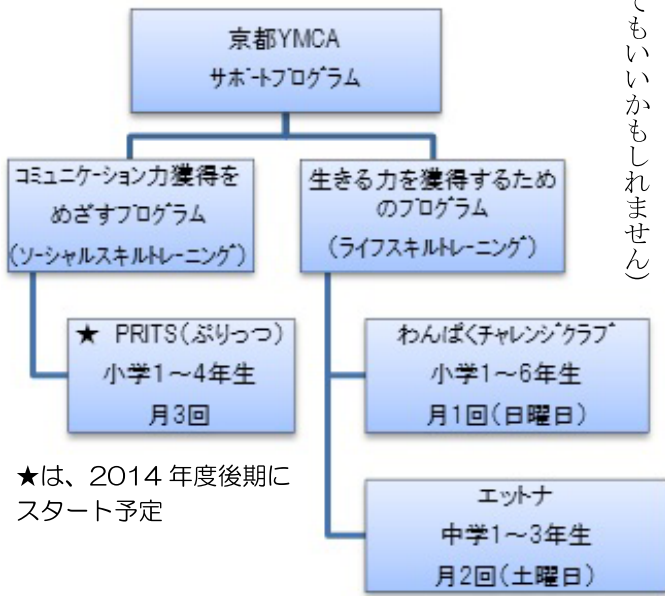
いう子ども達に対して、講師の先生は「順番を守るってことを知らないんです」「人にデブっていう事が失礼だとは知らないんです」「一緒に片づけるってことが『協力』っていうことを知らないんです」「それを教えて守れた時に気持ちいいなあ、嬉しいなあって感じさせることが社会性に繋がるんです」と毎回連呼されていました。

それから、10年後の二〇〇七年には、学校教育において「特別支援教育」の取り組みが始まり、AくんやBちゃん、C君のような子ども達は、通常学級にいながら特別な支援を受ける対象となりました。学校では、(彼



／彼女らの為に個別指導計画を立ててそれに従って指導がなされています。ことばの相談室での個別授業や、特別支援学校も地域学校に向けてのセンター的機能も果たされるようになってきました。様々な公共での取り組みが進む中で、「YMCAが出来る事」：それは、「自分の力でできる！」「わかったあーく」を感じる体験の場を確実に提供するというのだと思います。応用行動分析学の中に、「正の強化で維持させる行動選択肢の拡大」という定義があります。人は、良い事・嬉しい事・楽しい事等のごほうび(＝正の強化)があると、「またやろう！」「今度は○○やってみよう！」と自らの行動を広げていく力があるという事です。YMCAが得意とする「人が人と関わって楽しいと感じる／人が楽しんでるのを見るのが楽しい」をプログラムで丁寧に展

京都YMCAのサポートプログラム



開していく事は、コミュニケーション ションが苦手な子ども達がポジティブな行動を自らでゲットしようとする力に繋がっていく事だといえます。たとえ、失敗する事があっても、仲間と喧嘩する事があっても、特性を持っていく子がこだわりがあつて切り替えが弱いというのを知っています。Y M C A のサポートプログラムでは、「〇〇したらやり直して成功できる」「喧嘩してもリーダーが教えてくれて仲良くできた」「△△するのは嫌だったけど、ありがとうって言ってもらえた」と、一人一人の子ども達が確実に感じ取れる環境を作れば、自らで「行動選択肢の拡大」(「生きる力」といっていいかもしれません)

京都YMCAサポートプログラム
ディレクター 金山好美氏



をしていける人に育ってくれるに違いないと思います。決して与えてもらいう喜びだけを求めているのではなく、「自分で出来る喜び」を子ども達のペースに合わせて丁寧に捉えて一緒に喜んでいける環境を、サポートプログラムは作っていきたくと考えています。

活動報告



kyoto ymca activity report



福島被災者支援 リフレッシュ ファミリリーキャンプ

「東日本大震災救援復興支援募金」を用いて8月8日から13日にかけて行われた「福島被災者支援リフレッシュファミリリーキャンプ」には、幼児、小学生、中学生とその保護者・合計9名(3家族、各家庭3名ずつ)が参加されました。

当初は、Y M C A リトリートセンター、サバエ教育キャンプ場で行う予定でしたが、1日目の伏見稲荷大社、平等院観光の後、台風の影響により、2日目午後から3日目は、やむなくリトリートセンターから京都市内に避難して過ごすことになりました。子どもたちはY M C A のプールや京都市青少年科学センターなどで、大人は金閣寺やY M C A 近隣散策など、予定変更はしましたが、楽しい時間を過ごすことができました。台風



が去って、4日目にはリトリートセンターに戻り、待望の自然のもとで活動をする事ができました。近隣の小学生と鬼ごっこなどで思いっきり走り回り、5日目はサバエキャンプ場に移動して、思う存分、水遊びをしたり、カヌーに乗ったりする事ができました。キャンプが始まった時は、全く面識がない皆さんでしたが、活動を共にしているうちに、交わりが持たれ、日に日に全員が仲良くなっていきました。

このキャンプは、ボランティアビューロー専門委員、V O L A T Zメンバーによる実行委員会によって企画・運営がなされました。また、ウイング、エイブル、グローバル、みやび、東稜、Z E R O の各ワイズメンズクラブより、食事提供、運営費のご支援をいただき、充実したキャンプ生活をおくるこ

とができました。今後も、被災地に思いを寄せ、京都YMCAがで
きる支援活動を検討し、進めてい
きます。キャンプに関わったみな
さまに、感謝するとともに、今後
ともご支援よろしくお願いいたし
ます。

報告 藤尾実



リフレッシュファミリーキャンプ 参加者の声

○原筈の被害で食べ物食べられ
なくなったり、子どもたちの
外遊びが制限されたり、除染
で不便な生活を強いられたり
と、いろいろイヤな思いもし
ましたが、だからこそ、皆さ
んに心配していただいで、普
段なかなか経験できないよう
な良い思いをすることができ
ました。

青い空と白い雲の キャンプ

○このキャンプに参加して、子
どもたちと、いつか何処かで誰
かが困っている時に、ひとの
ために何か出来る人になろう、
いつか皆に恩返し出来る日が
来るといいね、と話し合うい
い機会にもなりました。

○離れた地でも、福島県の人間の
事を想ってくれている人がた
くさんいてくれて、とても心
強く思います。

二〇〇三年から始まった重い病
気の子どものときょうだいのための
キャンプ「青い空と白い雲のキャン
プ」は、12回目の今年も17名の参加
を得て開催することができました。

1日目は子どもたち自身が楽
器(マラカス)を手づくりし、夜
にはそれを使ってみんなで演奏会
をしました。また、アウトドア
クッキングにも
挑戦し、夕食を
自分たちで作
りました。今年
は夏らしい、そ
して豪快な料理
にチャレンジし
ました。メニュー
は「スパアリブ」
「タコライス」
「南国風焼きそ

ば」「パイナップルパウンドケー
キ」です。どの料理もおいしく
き上がり、わいわいと楽しくいた
だくことができました。



2日目は気球プログラムからス
タートです。雨が降ることはもち
ろん、強い風が吹いても飛ばすこ
とができない気球をこれまで一度
も欠かさずに飛ばせていました
が、今回も見事に気球を飛ばすこ
とができました。初めて乗った子
どもは「ふわっと(浮いて)、不
思議な感じ!」と何とも言えない
表情で話してくれ、毎年参加して
いて何度も乗った経験のある子ど
もも「毎年これに乗るのが楽し
み!(去年は見られなかった)琵琶
湖の向こう側が遠くまで見られ
た!」と嬉しそうに話してくれ
たのが印象的です。

この他、カヌーに乗って少し遠
くの浜まで出かけた先で原住民
(に扮したワイズメンやリーダー)
に遭遇し、一緒にゲームをしたり
歌を唄って楽しんだりするなど、
参加した子ども達にはもちろん、

それに関わるスタッフ
皆にとっても楽しいこ
と盛りだくさんのキャン
プを行なうことがで
きました。

このキャンプには、
参加する子どもたちが
身体的なリスクを抱え
ていることにすぐに対
応するために、京都大
学医学部附属病院及び
京都府立医科大学附属
病院から小児科医や小
児科の看護師がメディ
カルスタッフとして参
加してくださいました。
また、気球プログラム
協力として日本気球連盟、スタッ
フ協力としてリーダーOB OG、
京都ウイング、プリンス、ウエル、
トップス、洛中各ワイズメンズク
ラブからもご参加いただき、総勢
84名のリーダー、スタッフでキャン
プを行うことができました。感
謝して報告いたします。

報告 中村彰利

スイム祭り プール無料開放デー

9月7日(日) 京都YMCAウ
エルネスセンター5階プールを無
料で開放する「スイム祭り〜プー
ル無料開放デー」を開催しまし
た。地域の皆様に自由にプールを



ご利用いただくか
たわら、「〇×ク
イズ」「タイム計
測」「じゃんけん
大会」イベントを
行い、親子連れを
はじめ、多くの方
にご参加いただき
ました。

約100名のご
来場者の中には、
京都YMCAの
プールに初めて入
られた方も多く、
京都YMCAのこ
とを知っていただ
く機会として、と
ても良いプログラムになりまし
た。イベントにも多くのご参加を
いただき、大いに盛り上がりまし
た。

今後このようなプログラムを
定期的に行い、スイミングプログ
ラムや京都YMCAを知っていただ
く機会を増やしていきたいと
思っております。

報告 樋口三友紀



第38回 全国YMCA 少年少女水泳大会

日時：8月21日～22日
会場：千葉県国際総合水泳場



京都YMCAチームは、男子13名、女子15名で参加し、男子総合2位、女子総合優勝、男女総合優勝、女子最優秀選手賞を獲得。見事、大会6連覇を果たしました。

報告 東真理子

アクア フェスティバル

9月21日(日)に、京都YMCA 5階プールにて「アクアフェスティバル」が開催されました。

18組36名の親子が参加され、アクアビクスやゲームなどみんなで楽しく遊びました。最初は不安そうなお顔をされていた子どもたちも、最後にはとびきりの笑顔を見

せてくれました。保護者の方々もアクアビクスやゲームに真剣に取り組み、今回のテーマである親子の「絆」を深めることができました。

報告 吉田真奈



YMCA エルサレム・ユース・コーラス 京都公演

同じ地域に住みながら普段はお互いほとんど交流の無かったユダヤの青年とパレスチナの青年がYMCAで出会い、歌を通じて交流を深める。そんな取り組みが紛争の続くイスラエルのYMCAで始まっています。

現在イスラエルにはエルサレムのユダヤ人が多く住む地域にあるエルサレム・インターナショナルYMCAとパレスチナ人の多く住む地域にある東エルサレムYMCA、そしてパレスチナのガザ自治区にあるガザYMCAと3つのYM

CAがあります。

その中でエルサレム・インターナショナルYMCAはパレスチナ人とユダヤ人の憎しみの連鎖を断ち切ろうと平和を求める働きをしておりその一つがユース・コーラスです。

この夏もガザ地区でハマスとイスラエル軍の戦闘で多くのパレスチナ人の犠牲者が出ました。そんな中、京都男声合唱団の招きでYMCAエルサレム・ユース・コーラスのスタッフ及びメンバー26名が京都で公演を行いました。来日したのは、ユダヤとパレスチナの青年が約半分ずつの構成で、8月14日に京都コンサートホールの大ホールで京都の高校や大学、社会人のコーラスグループと共に公演を行いました。

海外での公演が初めてというエルサレム・ユース・コーラスでしたが、イスラエルやパレスチナの歌が披露された後、最後に平和の思いを込めてこの日のために練習してきた「花は咲く」が日本語で歌われ会場から大きな拍手がわきあがっていました。

京都YMCAからも当日のスタッフとして9名の会員が会場整理等の応援を行いました。

翌日には、ゼスト御池で路上ライブコンサートも行われ道行く人が多く立ち止まって聴き入っていました。その後東京での公演のために京都を後にしてゆきました。

報告 加藤俊明

福知山豪雨災害 ボランティア派遣

8月18日に京都府中部を襲った集中豪雨で、福知山市の中心部が冠水し、多くの住宅が床上・床下浸水をしました。京都YMCAでは、ボランティアアビュロー専門委員会が緊急委員会を開催し、23日(土)、24日(日)の2日間の復旧ボランティア派遣を決定しました。福知山YMCAのあたりも浸水しているという情報もあり、福知山YMCAメンバーの堀さんに連絡を取りボランティアアビュロー専門委員会の宇佐美委員長が急遽福知山に向かいました。宇佐美委員長は、福知山YMCAで堀さんと会い状況確認の後に福知山市の災害ボランティアセンターに

向かいボランティア派遣の事前調整を行いました。

福知山YMCAは幸い会館の浸水はなかったものの、会館周辺は水に浸かったため作業が必要ということでボランティアを派遣することとしました。

そのうえでボランティアバスの派遣をいち早く実施していた京都府災害ボランティアセンターと連絡を取りボランティア募集が行われました。京都YMCAではマイクロバスを使つての派遣ということで20名の募集でしたが、関心は高く、すぐに定員は埋まりました。

ボランティアアビュロー委員の2名は、福知山YMCA理事長宅に泊めていただき現地で調整にあたることになりました。

両日とも福知山YMCAでの作業と福知山市災害ボランティアセンターから派遣された集落での山から流れ込んだ土砂の撤去作業を行いました。

2日目は、作業途中に豪雨により避難警報が出され、予定より早く撤収というハプニングも起きましたが、与えられた役割をほぼ達成することができました。

今回のボランティアも委員会メンバーやワイズメン、VOLATZメンバー等のYMCA会員の他に多くの市民ボランティアが参加し、京都YMCAを通じてのボランティアをしていただくことができました。

報告 加藤俊明



サマープログラム

集中スイミング

6日間コースではスケジュールが合いくらいという声が以前から寄せられていたため、今年度より4日間コース(60分/日、90分/日)、5日間コース(80分/日)と期間を短くして2つの期間を設定しました。スケジュールを合わせやすくなったという声が多く寄せられ、360名(スクール生162名、スクール生以外一般270名)の子どもたちが参加し、目標の水泳ワッペンを目指して皆とても頑張り、充実の夏休みになったものと思います。

年少さん水泳(3日間) 28名幼児年少の子どもたちに、プールが好きになってもらおうと3日間の教室を新しく企画しました。1クラスの予定でしたが、2クラスに増やしました。初めはこわごわだった子どもたちもリーダーの楽しい水慣れプログラムですっかり水に親しむことができました。



「鉄棒やとび箱、マット運動ができるようになりたい!」という子どもたちの願いにこたえて、今夏も実施しました。初めはなかなかコツがつかめなかったお友だちも、リーダーの励ましでどんどん上達し、最終日には上手になったところをみんなに発表できました。

報告 辻中康宏

鉄棒とび箱が 好きになる教室

平泳ぎチャレンジは3年目の開講で年々参加者が増加し、44名と過去最高の参加者となりました。「小学校の遠泳の準備」や「安全のために平泳ぎを覚えさせたい」というニーズは高く、今後も継続していきたいと考えています。

報告 辻中康宏



アウトドアクラブ リーダーになって

私は、今年からアウトドアクラブのボランティアーリーダーを始めました。そして、今年の夏のキャンプで、初めて私は子ども達のグループのリーダーをすることになりました。

京都YMCAでは、グループのリーダーの事を「カウンセラー」と呼びます。私は初めてのキャンプが始まる前に「カウンセラー」の意味を調べました。そこには、「カウンセラーとは、明確な解決策を直ちに提示することは原則的にない。新しい理解や洞察に自発的にたどり着くために導く役割」と書いてありました。そこで私は



思ったのは、「リーダーがグループの子ども達に全部のことをやってあげることは、しない。」ということでした。子どもたちの身の回りの事をリーダーがやってあげることは簡単です。しかし、それだと子どもたちは、あまりキャンプを通して成長できなれないと思いました。

私は子ども達にキャンプを通して少しでも成長して欲しいと思いました。キャンプでは、二泊三日という時間、ずっと同じメンバード過ごします。ずっと一緒にいればケン

カもしてしまうと思います。ですが、ケンカは仲良くなるための手段でもあると思います。実際、私も子どもの頃に参加したキャンプで、ケンカして仲良くなったということがありました。ケンカを勧める訳ではないですが、子どもの頃にケンカをしておかないと大人になった時にどう対応すべきか困ると思います。つまり私は、子どもの頃はケンカをいっぱいすべきだと思っています。なぜなら、子どもの時だと、まだ関係が修復できると思うからです。子どもの頃にケンカしておくことで、もし

かしたらその後ケンカをしなくなるかもしれないですし、ケンカした後の対処法も学べるかもしれないからです。

キャンプ中には、リーダーを投げ出したくなるようなことがたくさんありました。ですがキャンプ中にケンカをした子ども達同士が、最後の日に仲良く遊んでいた。なにかあった時に「ありがとう」を言いあえるようになっていたのを見た時、一番「リーダーをしてみて良かった!」と思いました。

橋本康平
(アウトドアクラブリーダー)



サマーキャンプ

YMCA
ワイズメンズクラブ

京都ウイング ワイズメンズ クラブ

京都ウイングワイズメンズクラブ
第 28 期会長 岸本 伸也

例会日：第 1・3 木曜日
会 場：ホテル日航プリンセス京都
設立年月日：1987 年 8 月 10 日
メンバー数：38 名

一昨年に 25 周年記念例会を無事に終えました。ウイングクラブは今期 28 期を迎え現在のメンバーは 38 名で活動しています。Yサ、地域奉仕の事業にも各委員長が積極的に参加を促しております。IBCでは韓国・金浦ワイズメンズクラブと毎年 11 月にキムチ漬けの共同事業を実施しています。EMCにも力を入れてメンバー増強を目指してゲストの参加しやすいゴルフ交流会も継続的に開催しております。ここ数年出席率が低調なので魅力有る例会を企画してくれるドライバー委員長と委員は例会運営の要です。奉仕活動基金の獲得にもファンド委員会が頑張ってくれています。広報委員会も毎月の会員相互のコミュニケーションに一役かってくれています。

各委員会の主要事業として以下の取り組みをしています。

①青い空と白い雲のキャンプ (Yサ事業) サポート

毎年、8月の第4週の土日にサバエキャンプ場にて病気の子どものためのキャンプファイヤー、流しそうめん、2日目日曜日早朝の気球は大人気で、今まで一度も天候等の影響で中止する



ことなく飛ばせています。

②京都 J O C S チャリティーウォークソン (地域奉仕事業) サポート

例年、4月第1週土曜日に開催されています。鴨川を自分が決めたタイムで歩き、一応時計は見ないのが原則ですが実際のタイムとの誤差が



少ない方が良いというルールです。

③キムチ漬け共同事業 (IBC事業)

金浦クラブと毎年キムチ漬け事業を共同で行っています。我々メンバーが手作りし、梱包して支援先へ寄贈しています。



わたしたち

京都洛中ワイズメンズクラブは京都ウエストクラブをスポンサーとして 1988 年 1 月 10 日にチャーター致しました。チャーターから約 26 年、メンバーの親睦を深めつつ、YMCA、児童養護施設つばさ園への支援、協力を中心とした奉仕活動を続けて参りました。



京都 YMCA のリトセン・フェスタ、チャリティーラン等の支援、協力を致しておりますが、サバエ教育キャンプ場ではフィールド・アーチェリーの経験者がメンバーにいる関係からアーチェリー場設置の要望を受け、組み立て式的台と用具一式を贈呈し、サバエ開設ワークで毎年アーチェリー場の草刈りと整備、的台の設置を行い、弓矢のメンテナンス費用を洛中クラブが援助しております。クリスマス・ロビーコンサートも当初から一日のプログラムを受け持っております。

つばさ園への奉仕活動は松尾橋畔での花火大会、リト



セン・オートムフェスタ、京都部ボウリング大会への招

待等を行っておりますが、園児たちが最も楽しみにしている行事がサバエキャンプ場デイキャンプです。毎年小学生、幼児 20 ~ 25 名前後が参加し、マイクロバスをチャーターしてキャンプ場へ向い、リーダーの指導によりカヌー、水泳、スイカ割り、そしてメンバーが汗を流して焼くバーベキューで夏の一日を楽しんでいます。つばさ園でもグループ毎に別れ、海水浴へ出かけることがあるようですが、リーダーの指導方法、危険防止策は、つばさ園の職員の方にも参考になるようです。

その他の地域奉仕活動で洛中クラブが力を注いでいる行事に関西潜水連盟京都支部と行う嵐山クリーン作戦があります。毎年ゴールデンウィーク明けの日曜日に嵐山の渡月橋、中ノ島公園周辺の川の中のゴミや流木等をウエットスーツの潜水連盟のメンバーが引き上げ、洛中クラブがトラック等で集積場へ運び、メンバーが校長である洛陽総合高校の生徒、つばさ園の園児たちが地上のゴミを集め、洛中クラブや潜水連盟の作業にも協力します。今年は嵐山の水害の影響もあり、数人で引き上げなければならない物も多くあり、2トントラック数台分のゴミを集めました。

京都洛中ワイズメンズクラブはこれからもメンバーが親睦を深め、結束して YMCA や地域社会への奉仕活動を通じ、社会に貢献できるクラブでありたいと願っております。



YMCA
ワイズメンズクラブ

京都洛中 ワイズメンズ クラブ

京都洛中ワイズメンズクラブ
第 27 期会長 室田 博行
執筆者 山中 将平

例会日：第 2・4 木曜日
会 場：ANAクラウンプラザホテル京都
設立年月日：1988 年 1 月 11 日
メンバー数：16 名

「音楽(愛のあいさつ)皆様こんにちは京都YMCA朗読ボランティアグループこおろぎです。」と、これはお馴染みの呼びかけではじまるテープあるいはCDです。

そうです。私たちは視覚に障がいのある方々に、音による情報をお届けしている朗読ボランティアグループです。

一学生が受験勉強に参考書の音訳を、とのことから始まったと聞いておりますが、30余年前から活動いたしております。当時は、今出川、桃山、長岡と次々とYMCAの支えによって立ち上げ、各自の地域においてニーズに合わせて働いてまいりました。たとえば選挙公報だったり、視覚障がい者協会からの会報だったり。

現在、『京都YMCAこおろぎ』と『長岡こおろぎ』とになっておりますが、元気に活動いたしております。ためになる情報、面白い情報、そして音楽を取り入れて、と小さなことですが一服の清涼剤になればと思って、音の雑誌を作り、ご希望の方に配信いたしております。

今、テープ配信が80名、CD配信が30名になっております。

時代とともに変化して参りました。

リスナーの方との交流は大切と考え、ふれあい交流会を毎年いたしております。手引きをしながらふれあ

うことで意見交換、情報交換ができます。この時には男性の助けも必要で、京都キャピタルワイズメンズクラブの方々に応援を頼みます。これももう29回目になります。

そんな中、「こんな本を音訳して」などと持ち込まれる方もあります。じっくり取り組んで聞きやすいものをと心がけて作ります。(NHKの真似をしてアクセント、滑舌に気を付けて。)

また視覚障がい者協会からの要望により、区民新聞の音訳お手伝いもいたしております。

録音という大きな機材を存分に使えるのもYMCAがあればこそです。

こんな仕事に興味のある方ぜひお越しください。大歓迎です。



YMCA ボランティアビューロー

京都YMCA こおろぎ

京都YMCAこおろぎ

代表 池上 恭子

設立年月日:

今出川こおろぎ 1976年10月

桃山こおろぎ 1984年4月

京都YMCAこおろぎ 2008年

メンバー数: 16名

バスケットボールクラス

京都YMCAバスケットボールクラスは醍醐と上桂の地域体育館を活動拠点に、バスケットボールを考案し、日本に紹介して初めて100周年を迎えるYMCAのバスケットボールチームは現在も元気に活動しています。このチームではバスケットボールの楽しみを知ると同時に、協調性や相手に対する尊敬や思いやりなども学びながら練習しています。今回の全国YMCAユースバスケットボール大会は第1回東アジアYMCAユースバスケットボールフェスティバルも兼ねており、ソウルYMCAの参加もあった事で子どもたちにとって新たな国際交流ができました。今大会のCD(キャラクター・ディベロップメント:思いやり・誠実さ・尊敬心・責任感)の取り組みで、他のYMCAにメッセージを渡すという取り組みがありました。子どもたちは自分から「〇〇は韓国語でどう書くの?」や「〇〇は何ていうの?」など異文化への興味を持ってくれました。もちろん試合の方も自分の持てる力を存分に発揮してくれて楽しい全国大会になりました。



優勝することができました。またYMCAのCDの価値を試合中、試合以外のすべての場所で大切にしているチームに贈られるフェアプレー賞を、3年連続で京都YMCAチームが獲得することができました。

夏も終わり、冬・春にはサッカーキャンプがあります。多くの子どもたちが楽しみ、子どもたちのよき成長の場となることを目指し、準備を進めています。



サッカークラス

京都YMCAサッカークラスでは、子どもたちが楽しみながらプレーする事を大切に指導しています。基本的な技術から高度な技術の修得を目指します。またサッカーを通して、挨拶・マナー・ルールなどの日常生活や精神面での成長にも力を入れています。

今出川、御所、宝ヶ池、伏見の4つの会場に年中～小学6年生までの子どもたち約110名が参加し、学年や学校に関係なく、毎週元気にサッカーを楽しんでいます。また高度な技術の習得を目指すスキルアップクラスもあり、地域のサッカーチームの大会やYMCAの大会にも出場しています。毎年夏には中日本YMCA少年少女サッカー大会に出場し、今年のサッカー大会では5・6年生部門で3位、3・4年生部門では

活動詳細

●バスケットボールクラス

【上桂】活動日: 毎週月曜日、活動場所: 桂川地域体育館

【醍醐】活動日: 毎週木曜日、活動場所: 醍醐地域体育館

●サッカークラス

【今出川キッズ・ジュニア】活動日: 毎週火曜日、

活動場所: 出雲路橋グラウンド

【御所】活動日: 毎週水曜日、活動場所: 御所出水広場グラウンド

【宝ヶ池キッズ・ジュニア】活動日: 毎週金曜日、

活動場所: 宝ヶ池フットサルコート

【伏見】活動日: 毎週土曜日、

活動場所: 三栖公園フットサルコート

【週2クラス】今出川、宝ヶ池、伏見のいずれかで週2回活動

YMCA ユース

バスケットボール・ サッカースクール

バスケットボールクラス

担当スタッフ 久馬 正輝

サッカークラス

担当ディレクター 増本 勇介

メンバー数:

●バスケットボールクラス

【上桂】19名、【醍醐】17名

●サッカークラス

【今出川キッズ】2名、【今出川ジュニア】26名、

【御所】13名、【宝ヶ池キッズ】4名、

【宝ヶ池ジュニア】31名、【伏見】27名、

【週2クラス】14名

information

めざせ125人!

みんなで

アウトドアな休日を過ごそう♪

(ファミリー交流プログラム)



森の木々が色づき始める自然に囲まれた京都YMCAリトリートセンターで、YMCAアウトドアクラブやキャンプのリーダーと共に休日を過ごしましょう。

午前はお父さんチーム、お母さんチーム、子どもチームに分かれてそれぞれ楽しいものを作ります。午後からは作ったものを使って、家族やリーダーとみんなで楽しめます。

日 程： 2014年11月1日(土)
9:00~17:00

場 所： 京都YMCAリトリートセンター

集合・解散場所： 京都駅八条口南北自由通路下

参 加 費： 小学生以上 3,500円
幼児 3,000円

※会友・家族とその友だち家族、2014年度サマーシーズン会友は割引あり

申込締切： 2014年10月20日(月)

お申込み・お問合せ：

京都YMCAグローバルアウトドアクラブ

T E L： 075-231-4388



特別講演会

「病と社会的差別」

日本のハンセン病対策の反省に立って



聖書の記述にも取り上げられ、日本の歴史の中でも長らく差別の対象となっていたハンセン病についての学びの機会です。

ハンセン病患者の入所施設国立療養所長島愛生園で臨床医として関わられた尾崎元昭先生に、日本のハンセン病患者の置かれていた処遇や社会的な差別について、自らの実体験に基づいたお話をいただきます。

日 時： 2014年11月8日(土)
15:00~17:00

会 場： 京都YMCA 三条本館 204号室

入 場 料： 無料

お問合せ： 京都YMCA

T E L： 075-231-4388

E-mail： kyoto@ymcajapan.org

国際協力街頭募金

京都YMCAでは毎年、戦争や紛争の中で飢餓や貧困に苦しめられている人々の救済、アジアやアフリカの青年と女性の社会参加と自立、海外での自然災害の被災者救援のために、国際協力募金を行なっています。

今年も会員・市民ボランティアの方々が協力して、街頭で国際協力を呼びかける募金活動を行ないます。

日 程： 2014年11月2日(日)

募 金 場 所： 三条河原町、三条大橋、四条河原町、
四条烏丸、など市内約10カ所(予定)

お 問 合 せ： 京都YMCA本部

T E L： 075-231-4388

E-mail： kyoto@ymcajapan.org

YMCA祭

日頃の学生の取り組みを発表し、京都YMCAや地域に連なる方々との交流を図ることを目的に毎年実施しています。

毎年、学生によるステージイベント、模擬店や物品販売を実施し、収益は国際協力募金等に充当させて頂いております。

楽しく気軽に参加できるよう準備を進めています。

皆様のご参加をお待ちしております。

日 程： 2014年11月3日(祝)

10:00~15:00



防災ワークショップ 第2回 一人ひとりの災害対応



近年私たちの身近で水災害が頻発しています。水災対応についての講演後、クロスロードというゲームや防災マップを用いて、「災害の様々な場面においてどのような行動をするのか」について実践的に学びます。

日 時： 2014年11月10日(月)
19:00~21:00

会 場： 京都YMCA 三条本館 マナホール

入 場 料： 無料

※先着40名様に限らせて頂きますので、下記よりお申込ください。

お 申 込 み： 京都YMCA

T E L： 075-231-4388

お 問 合 せ： E-mail： kyoto@ymcajapan.org